

第4回 市民と議会との意見交換会 報告書



開催日 平成30年8月17日（金） やますそ
8月20日（月） 伊那公民館
8月22日（水） 伊那市防災コミュニティセンター

1	はじめに	1
2	議長あいさつ	2
3	意見交換会の概要	3
4	意見交換会で出された意見とその後の検討結果	4
5	参加者アンケート結果	24
6	各会場の様子	38

伊 那 市 議 会

1 【はじめに】

伊那市議会は、今回で 4 回目となる「市民と議会との意見交換会」を開催しました。

意見交換会では、市民の皆様と伊那市が抱える課題について情報を共有することが大切と考え、3つの常任委員会（総務文教委員会・社会委員会・経済建設委員会）ごとに、テーマを決めて意見交換をしていただきました。

今回も多くの皆様から、住みよい伊那市を目指すための前向きな意見を多くいただきありがとうございました。

意見交換会終了後、委員会ごと意見集約をし、調査・検討を経て、結果をまとめましたのでご報告させていただきます。

市民と議会との意見交換会も回を重ねるごとに、色々な課題が見えてきました。今後、多様な世代、数多くの地域の皆様が参加しやすい意見交換の機会になるように、開催会場・開催曜日・開催時間等、検討をしてまいりたいと思っています。

なお、「市民と議会との意見交換会」に関するご意見・要望等がございましたら、議員又は市議会事務局までお申し出くださいますようお願いいたします。過去 3 回の報告書も市役所・各支所・市立図書館等においてありますので是非ご覧いただければと思います。

平成 31 年 3 月 1 日

伊 那 市 議 会

2 【議長あいさつ】

－ 開会にあたって 黒河内 浩議長 あいさつ より －



皆様、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

議会の存在というのは何なのか、何をすることが議会にとって大切なことなのか。またその議会を構成するそれぞれの議員は、どういうことを考え、そしてどんな行動を取るのか、議会にとって一番大切なことだろうと思っておりますが、その根底にあるのは市民です。我々は市民の代表者です。市民の皆様の意見を集約して、それを市政の中に反映させていく、それが何よ

りも議会にとって一番大切なことでもあります。

今日はそれを実践するための意見交換会であり、我々議員が市民の皆様の意見を掌握するための非常に大切な手段だと思っております。議会は行政に対する監視機能、チェック機能です。間違った方向にいけないか、市民の意見が尊重されているのかどうか等を監視することが、何より重要なことです。ただ、それだけでは済まされないと思っております。我々はもう一歩進んで、議会が政策をつくり上げていく、行政の足りない点、補完すべきことを市民からしっかりと意見を聞いて、それを議会として政策を作り、提言して、市政に反映させていく。この監視と同時に政策提言をそこにぜひ結びつけていく、そんな議会を我々21名でつくっています。そのためにも皆様の貴重な意見を、また自分だけでなく隣近所からこんな意見が出ているよということを、ぜひ反映させていければ、この意見交換会が成功に終わるのかなと思っております。

それともう一つ、ぜひ皆様をお願いしておきたいことですが、今日のアンケートの裏に載っていますが、今どこでも、地方議会が議員のなり手不足ということで苦勞しているのが現実であります。4月の伊那市議会議員選挙でも、残念ながら無投票という結果で終わりました。これは何かと問題があるかと思っておりますけれども、我々議会としても魅力ある議会づくり検討会を立ち上げて、21名の議員全員で何が原因なのか、どうすれば今後の良い議会がつくっていけるのか議論しています。皆様からも、こんなことをすれば議会がもっとより良い議会になっていけるのではないかと、そんな意見をぜひご記入いただいて、お考えをお聞かせいただければ、我々も今後のためになっていくであろうと思っております。今日の意見交換会が有意義なものになるように、21名を代表して私からもお願いしたいと思います。

今日はよろしく申し上げます。

3 意見交換会の概要

1 開催日時、会場及び参加者数

○平成30年8月17日（金） 19：00～21：00
高遠町総合福祉センター「やますそ」
参加者数：31名

○平成30年8月20日（月） 19：00～21：00
伊那公民館
参加者数：51名

○平成30年8月22日（水） 19：00～21：00
伊那市防災コミュニティセンター
参加者数：33名

2 内容

3つの分科会ごとに分かれ、あらかじめ決めてありましたテーマに沿って、意見交換を行いました。

3日間とも共通で、各分科会のテーマは次のとおりでした。

【総務文教分科会】 懇談会形式 担当：総務文教委員会

「伊那市の公共交通を考える
～市内循環バスと買い物弱者等の現状と課題～」

【社会分科会】 ワークショップ形式 担当：社会委員会

「健康で暮らしやすいまちづくり
～子どもの安全・安心を考える～ ・ ～健康長寿・認知症対策を考える～」

【経済建設分科会】 ワークショップ形式 担当：経済建設委員会

「魅力ある伊那市
～人が集まる伊那の産業（しごと）～」

4 意見交換会で出された意見と その後の検討結果

検討テーマ	処理担当委員会
循環バスについて	総務文教委員会
市民から出された意見	
<p>①市内均一料金が望ましい</p> <p>②小型バスでいい</p> <p>③きめ細やかな路線と時刻表を望む</p> <p>④乗り継ぎがうまくできるようにしてほしい</p> <p>⑤フリー乗降化を希望する</p> <p>⑥まっくんバス、みのちゃんバスと連携をし、市町村境もうまく乗り入れができることを望む</p>	
現状・市の対応(企画政策課)	
<p>①現在、伊那市（伊那市地域公共交通協議会）が運行するバス路線の運賃は、基本的に最高310円となるように設定しています。また、バス事業者の自主運行路線のうち藤沢線については、310円を超える運賃に対して市が助成を行い、負担の軽減を図っています。今後も、運賃負担の平準化に向けて検討します。</p> <p>②③⑤バス車両ではドア・ツー・ドアの運行は困難です。市では今後、AIによる自動配車・乗合サービスの導入に向けて取り組み、3年後（2021年度）のドア・ツー・ドアの乗合デマンドタクシーの運行を目指します。</p> <p>④バス路線同士やバス路線とJR飯田線の接続を考慮してダイヤを組んでいますが、更なる乗継性の向上に努めます。</p> <p>⑥伊那市、箕輪町、南箕輪村では伊那地域定住自立圏を構成し、3市町村を縦断する伊那本線を運行して交流促進に取り組んでいます。まっくんバスについては伊那中央病院や西箕輪地区に乗り入れており、今後もみのちゃんバスを含めて市町村境の乗り入れが可能か検討します。</p>	
総務文教委員会での検討結果	
<p>①現在、乗り継いで移動はかなりの料金がかかる。市内どこへ行っても同一料金となるように補助を検討していただきたい。</p> <p>②③⑤3年後のドア・ツー・ドア乗合いデマンドタクシー運行目指して、さらに事業を進めていただきたい。</p> <p>④更なる乗継性の向上に努めていただきたい。</p> <p>⑥特に福島区付近について、検討を進めていただきたい。</p>	

検討テーマ	処理担当委員会
交通弱者対策について	総務文教委員会
市民から出された意見	
<p>①買い物と病院通院に繋げるルートを考えてほしい</p> <p>②移動購買車支援策を望む</p> <p>③病院通院専用のバスがほしい</p> <p>④バス停まで行くのも困難。ドアツードアデマンド化を望む</p>	
現状・市の対応(企画政策課・社会福祉課)	
<p>①④バス車両では、買い物や通院などの全てのニーズに対応するきめ細やかな運行は困難です。市では今後、AIによる自動配車・乗合サービスの導入に向けて取り組み、3年後(2021年度)のドア・ツー・ドアの乗合デマンドタクシーの運行を目指します。</p> <p>②移動販売車の車両の購入費やリース料に対する補助制度を本年度創設しました。事業者の新規参入や事業拡大、事業継続を支援することにより、買物弱者対策を推進します。</p> <p>③公共交通として病院通院専用のバスを運行することはできませんが、今後、ドア・ツー・ドアの乗合デマンドタクシーの運行に向けて取り組み、通院にも使いやすい公共交通の実現を目指します。</p>	
総務文教委員会での検討結果	
<p>市民の声を良く聞き、ニーズを的確に捉えて、3年後のドア・ツー・ドア乗合デマンドタクシーの運行を目指していただきたい。</p>	

検討テーマ	処理担当委員会
運転免許返納後について	総務文教委員会
市民から出された意見	
<p>①運転免許返納に対する助成を増やしてほしい</p> <p>②免許返納後もトラクター限定で乗り続けられるような手だてを考えてほしい</p> <p>③免許返納できない事情のある高齢者のためには自動ブレーキ車購入補助を希望</p>	
現状・市の対応(生活環境課)	
<p>①運転免許返納に対する助成を増やしてほしい 平成29年度には179名の方に助成を行い、平成30年度も200名程度を予定しています。 助成額は、平成29年度に3,000円を5,000円に増額したため、当分の間は現状を継続したいと考えます。</p> <p>②免許返納後もトラクター限定で乗り続けられるような手だてを考えてほしい 現行の道路交通法などによりトラクターで道路を走行する場合には、どうしても大型特殊自動車免許、または小型特殊自動車免許が必要です。</p> <p>③免許返納できない事情のある高齢者には自動ブレーキ車購入補助を希望 自動ブレーキ搭載車は日々進歩しており、近い将来は標準装備化も考えられるため補助は考えていません。なお、自動ブレーキ搭載車購入推進の広報は充実していきます。</p>	
総務文教委員会での検討結果	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 運転免許証を返納した後の生活状況を伺うと、「農業に支障をきたしている」「外出が少なくなりひきこもり状態になっている」「家族にも遠慮しながら送迎を依頼している」等と各々苦労されている。 行政や警察等で、返納後の生活状況や不便な事、また希望すること等についてアンケートをとって見て、状況把握することが必要である。 その後、必要とされている補助等を分析し、必要な手を差し伸べていくことが喫緊の課題である。 ・ 運転免許証自主返納者へは様々な助成があることを、さらに力を入れて広報するべきである。 ・ 高齢者の事故を減らすために、運転免許証の返納を推める事は大切である。 しかし、農業従事者にとって、免許証返納後も限定された道でトラクターだけは運転したい思いが切実であるので、返納に対する各種助成は受けられないが、免許の更新時に農作業に必要な小型特殊免許の資格だけ残して、免許証の書き換えができることも周知していただきたい。 	

総務文教分科会が出されたその他の意見

《 循環バスについて 》

- ・循環バスにも各駅と急行があってもいいのではないか
- ・高遠地区はニシザワ食彩館まで回るバスがほしい
- ・野底地区は通っていない。野底だけでなく一人暮らし高齢者が多い地区のことを考えたバスルート対策を願う
- ・通院と買い物を繋げるバスルートがほしい
- ・病院専用の循環バスを望む
- ・月1回程度、無料の日を作り、病院周りを無料にしてもらえるとありがたい
- ・空気を運んでいる状態が長く続いている。市民が必要としていないのなら、いつそのこと利用しない循環バスは無くしたらどうか
- ・無料バス乗り放題の宣伝がまだまだ足りないのではないか
- ・利用する人が、誰が・いつ・どこで乗るか等、詳しい実態調査が必要ではないか
- ・社会人が飲み会の後などに利用できる、遅い時間帯のバスの運行ができないか

《 交通弱者について》

- ・ボランティアによる送迎ができると良い
- ・マイカーを使った送迎ボランティアがなんとか増やせないか
- ・コンビニがたくさんあるので、コンビニからの配達ができないか
- ・移動販売事業を起業するための支援策がほしい
- ・移動販売が充実するような特区を考えてほしい
- ・幼稚園送迎バスを福祉バスとして使えないか
- ・社会福祉協議会が様々な実態調査をしたときに、市も認識を共有して協力の輪を広げてほしい
- ・全国にはデマンドタクシーが無料の市もある。研究してほしい。

《 運転免許返納後について 》

- ・免許返納後も、トラクター限定で、乗れる道も限定で、なんとか自分の農地だけは管理できるように道路交通法がならないものか
- ・普通自動車免許返納後も乗れる、トラクター限定免許というものを考えてほしい
- ・自動運転、自動ブレーキ機能のある車は、ある程度の年齢が来ても運転を許可できないか研究してほしい
- ・いきいき健康券を免許を持っていなかった人にも配布してほしい

検討テーマ	処理担当委員会
「健康で暮らしやすいまちづくり ～子どもの安全・安心を考える～ ～健康長寿・認知症対策を考える～」	社会委員会
市民から出された意見	
①子ども食堂について ・貧困や孤食など、問題を抱える子どもの居場所作りとしての『子ども食堂』が必要ではないか。 ⇒ 市内で開催された例はあるか。また、市として取り組んでいく予定はあるのか。 民間で開催した場合の支援はあるのか。	
現状・市の対応(社会福祉課)	
・全国的に、主としてボランティアやNPO法人等が取り組んでいる子ども食堂ですが、困難を抱える子どもを支援するもの、地域の様々な子どもを対象とするもの、子どもに限らず地域住民の交流の場とするものなど、多岐に渡っています。 ・市内では、全部で4つの民間の主体が開催、運営しており、うち3件は月1回開催する形態をとっています。この3件は、地域の子どものからお年寄りまで自由に参加できるもの、施設利用者との交流を目的としたもの、学習支援を主としたもので、特に貧困世帯の子ども等に対象を限定してはしません。 ・もう1件は、学校の長期休み期間に実施しており、事情のある世帯の子ども達を対象としているため、マスコミ等に公表をしない形態をとっています。 ・現在、これらの子ども食堂に対し市から補助等は行っておらず、依頼があれば参加の呼び掛けなどに協力を行っています。 ・今後市としては、これらの子ども食堂の取組を見守るとともに、必要に応じて開催場所を提供するなど行政としての支援のあり方について検討していきたいと思えます。	
社会委員会での検討結果	
・開催場所が市の中心部に偏っている。各地域ごとで開催できるよう場所を提供するとともに実施団体への働きかけが必要ではないか。 ・子ども食堂運営が円滑に行えるよう、人材育成・人材確保等を検討されたい。 ・子ども食堂の運営継続のため、実施団体への補助金について検討されたい。	

検討テーマ	処理担当委員会
「健康で暮らしやすいまちづくり ～子どもの安全・安心を考える～ ～健康長寿・認知症対策を考える～」	社会委員会
市民から出された意見	
<p>＜今後の保育園のあり方について＞</p> <p>① 保育園の統廃合の今後の計画は。</p> <p>② 保育園の遊具の老朽化調査は行っているか。また、老朽化した遊具への対処方法は。</p> <p>③ 保育園の受け入れを朝7時からにできないか。</p>	
現状・市の対応(子育て支援課)	
<p>＜今後の保育園のあり方について＞</p> <p>① 保育園の統廃合の今後の計画は。 保育園の統合については、現行の保育園整備計画の中で今後新たな計画はありません。休園・廃園については、児童減少地域の保育園の在り方として、子ども子育て審議会において協議中です。</p> <p>② 保育園の遊具の老朽化調査は行っているか。また、老朽化した遊具への対処方法は。 保育園の遊具点検は、専門業者により各園2年毎実施し、指摘箇所について修繕等の対応をしています。</p> <p>③ 保育園の受け入れを朝7時からにできないか。 公立保育園は、朝7時30分からとしています。私立保育園で朝7時からの実施があります。家庭の事情によっては、実施園の利用、ファミリーサポートセンターの利用、勤務先周辺の施設利用などが考えられます。今後、ニーズ量の動向を踏まえ検討したいと思います。</p>	
社会委員会での検討結果	
<p>① 統廃合については保育園の「施設整備基準」と「小規模保育園における休廃園基準」の廃止を議会から提言した経過がある。現在、子ども子育て審議会でも協議しているため経過を見守りたい。</p> <p>② 遊具の点検を2年毎に行っているとのことであるが、より安全な保育環境を確保するために年1回の点検を行うべきである。</p> <p>③ 保護者へアンケート調査を行い、利用者のニーズに即した受け入れ態勢を整えて欲しい。</p>	

検討テーマ	処理担当委員会
「健康で暮らしやすいまちづくり ～子どもの安全・安心を考える～ ～健康長寿・認知症対策を考える～」	社会委員会
市民から出された意見	
<p>①健康長寿について ・健康長寿を目指すための施策の検討はされているか</p> <p>②子育て世代の支援の充実について ・高校生の通院も福祉医療費給付金の対象にならないか</p>	
現状・市の対応(健康推進課)	
<p>①健康長寿について 「健康で安心して暮らせる伊那市」を実現するため、第3次伊那市健康増進計画及び第3次伊那市食育推進計画に基づき保健事業を進めています。市民一人ひとりが「自分の健康は、自分で守りつくる」意識を高め「健康長寿」を目指します。</p> <p>◎生活習慣病の発病予防・重症化予防 自分の健康状態を理解し、自らが疾病の早期発見、早期予防をすることが大切であるため、その機会となるよう下記の健診を実施するとともに、結果説明会を開催し、原則受診者全員に個別指導を行っています。(ただし、75歳以上のいきいき健診受診者は、ほとんどの方がかかりつけ医を持っているため、結果は郵送とし主治医から指導をしてもらうようにしています。) ・特定健診(40歳以上74歳以下の国保加入者) ・はつらつ健診(20歳以上40歳未満) ・いきいき健診(75歳以上)</p> <p>○平成30年度の結果説明会は、市内各会場で74回実施 ○特定健診受診率は年々増加し県下19市中2位であるが、今後もさらに医療機関との連携を密にし、未受診者対策に努めたい。 ○心臓病や脳卒中、腎不全(透析)などの重大な病気の原因となる「メタボリックシンドローム」や「糖尿病予備軍」などの方を、検診結果から抽出し、かかりつけ医と連携を取りながら重症化予防に努めています。</p> <p>◎がん対策 早期発見・早期治療につなげるため、各種がん検診を実施しています。(胃がん、大腸がん、子宮頸がん、肺がん、乳がん、前立腺がん)</p> <p>◎予防など健康に関する啓発 市報やケーブルテレビ等を通して行い、健康講演会等については、医師会の市民公開講座や伊那中央病院等で実施する講演会等を紹介しています。</p>	
<p>②子育て世代の支援の充実について ○伊那市の福祉医療では、子ども医療費の通院の範囲は、中学生までとなっています。 ○福祉医療費の対象については、伊那市医療政策審議会や、伊那市医師会の先生方からも、高校生は成人と変わらない体格となり罹患率も低いと意見をいただいているところで、通院についてはまだ慎重な判断が必要です。 ○伊那市で高校生の通院まで給付を実施した場合、年間で2,050万円(※)ほど給付が増えると試算しており、伊那市が単独で18歳までの外来診療について対象拡大を実施することは、現在は考えていません。(※29年度中学生通院給付額の8割で試算 給付費1,800万、手数料250万)</p>	

社会委員会での検討結果

①健康長寿について

・現在の施策に加え「このまちいいな」等のオリジナル体操の活用など、市民が参加しやすい施策を推進してほしい。また、健康長寿を目指すためには保健委員の力を借りることも一つの策ではないか。

②子育て世代の支援の充実について

・高校生は体格が成人と変わらなくとも成長過程である。学校での病気の感染率も高く通院費が高額になる場合も予想されるため、福祉医療費給付金の対象とすべきである。

検討テーマ	処理担当委員会
「健康で暮らしやすいまちづくり ～子どもの安全・安心を考える～ ～健康長寿・認知症対策を考える～」	社会委員会
市民から出された意見	
<p>①「認知症」についての理解が薄い。どのような病気なのか、勉強会等必要ではないか。</p> <p>②家族等が認知症になった時、気軽に相談できる窓口はあるのか、受けられる行政サービスはどのようなものがあるのか、情報が少なく不安。</p> <p>③認知症の方等に対し、地域で見守り、助け合いをしていきたいが情報がつかみきれない。要援護者台帳を地域で活用できないか。</p> <p>④認知症の方を地域や個人で支援する場合の、市からの助成金について具体的に知りたい。</p>	
現状・市の対応(高齢者福祉課)	
<p>①「認知症」に関する勉強会等について</p> <p>(1)「認知症を考える市民のつどい」(認知症に関する講演等) 平成30年7月28日いなっせで開催(H22から毎年実施) 約230名参加</p> <p>(2)「伊那市認知症学習会」 平成30年9月～11月 全5回の学習会(H28から毎年実施) 38名参加</p> <p>(3)「認知症サポーター養成講座」 団体等からの申し込みがあれば日程等を調整し、随時開催</p> <p>(4)「伊那市おでかけ講座」(介護保険、高齢者福祉、介護予防等の講座) 団体等からの申し込みがあれば日程等を調整し、随時開催</p> <p>②認知症に関する相談窓口、行政サービス等について</p> <p>(1)「地域包括支援センター」 市役所高齢者福祉課及び高遠町、長谷、美篤、東春近、西箕輪各支所</p> <p>(2)「もの忘れ(認知症)医療相談」 奇数月に1回保健センターで実施 予約制 相談無料</p> <p>(3)「介護認知症おしゃべりカフェ オレンジ」 月1回2時間 参加費200円 市内6か所で実施</p> <p>(4)「認知症初期集中支援チーム」(伊那神経科病院委託) 複数の専門職により初期の支援を集中的に行う。</p> <p>(5)「ひまわり会」(もの忘れが増えて心配な方に対する認知症予防教室) 月1回伊那会場と高遠会場で実施 利用料250円</p> <p>(6)「イーナ介護なんでも相談所」(市内33か所の介護保険事業所) 介護や福祉などの相談を受け、必要に応じ地域包括支援センターへつなぐ</p> <p>(7)「認知症高齢者のためのサービスの流れ」(認知症ケアパス)の作成配布</p> <p>③認知症の方等の地域での見守り支援、要援護者台帳の地域での活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要援護者台帳は個人情報のため外部への情報提供には制限があるが、災害等の緊急時に要援護者の誘導救出を迅速に行うため、地域の自主防災会などにおいて住民支え合いマップの作成等を行う場合、申請により情報提供しています。 ・認知症について正しく理解し、身近な地域等において困っている認知症の方やご家族をさりげなく支援し、温かい目で見守っていただける「認知症サポーター」を養成しています。 ・認知症サポーターの講座受講後の活動を支援する「オレンジリンク」については、現在検討中です。 ・イーナ介護なんでも相談所に協力いただく形での「認知症見守りネットワーク」について、現在検討中です。 	

④認知症の方を地域や個人で支援する場合の市からの助成金について

- ・認知症の方に対する支援に限定した助成金はありません。
- ・要支援1、要支援2、総合事業対象者に対する住民主体による生活支援サービスである「訪問型サービスB」「通所型サービスB」を行う団体に対する補助制度はあるので、地域包括支援センター(高齢者福祉課)へ御相談いただきたいと思います。

社会委員会での検討結果

①勉強会等は全世代に対象を広げ、地区単位での開催が望ましい。また「伊那市おでかけ講座」についての周知が必要である。

②④

- ・市には多くの相談窓口、行政サービス等あるが市民への周知不足が感じられる。より多くの方に利用してもらえるよう周知方法を工夫すべきである。
- ・周知方法の一つとして、相談窓口・行政サービスが一目で分かる一覧表(保存版)を全戸配付すべきである。

③現対応を今後も継続し、地域での見守りや助け合いにつなげていって欲しい。

社会分科会で出されたその他の意見

《 子どもの安全・安心を考える 》

待機児童、行きたい保育園とは別の保育園しか行けない。
東小学校と竜東保育園が近く、保育園への送迎車が危ない。
保育士、先生たちの正職員化。
保育室・教室の熱中症対策、クーラー設置。
私立保育園への市からの補助が少ない。
松くい虫被害により、保育園の子供がいつも通り、山に入れない。
家で引きこもっている子どもが行ける場所作り（お金の掛からない）。
安心安全な子供の居場所、公園等が少ない。
遠距離通学児童の安全対策と地域と連携したスクールバスの路線検討
通学路の整備として歩道・グリーンベルト・街灯の設置、速度制限等。
高校：藤沢、長藤、三義と市街地との通学格差。JRへの働きかけ（時間、ルートなど）。
中学部活後の送迎に対するマナー。
通学時のブロック塀や不審者への安全対策。
通学時の自転車事故防止対策として自転車通行帯を設置できないか。
通学路の街灯については、地区からの依頼ではなく個々に対応を。
通学路へ木が出ていて見通しが悪い。
電車通学の生徒の自転車置き場に屋根が欲しい。
道路標識が古くて判りにくい。
冬場や部活後の下校時が暗くて危険なため、反射材を市で配布してほしい。
下校時、子供たちがバラバラで、一人で帰宅する子もいる。見守り方法を考えてほしい。
学習支援や入学費用支援等、子育て世代への支援の充実を。
子どもの声を聴く仕組みと、親（特に母親）の相談窓口を。
不登校や困難を持つ子ども、若者への支援のネットワークが少ない。相談体制と支援が不十分。
学校でのいじめがなかなか改善しない。
教師と市民の繋がりが希薄。
子育てサークルの継続性がない。
子どもの権利の尊重。（虐待、大人が加害者）
思春期の子どもたちの理解を深める必要ある。（自死の防止対策）
人口、経済が縮小していくことを見据えた対応、子育て（教育）のあり方。
生涯学習基本構想を作成しただけで具現化してない。生涯学習相談員がいない。
地域の安全のためには駐在所が必要。

社会分科会ではされたその他の意見

《 健康長寿・認知症対策を考える 》

認知症老人と世間とが関わることを議論してもらいたい。日影社協で行っている「あったかご近所ネット」のような活動を広げ、お互いさまの関係をつくる。

80-50, 90-60問題、市民後見人の育成と利活用。成年後見利用促進法の趣旨を市政でどう活かすか。

忙しい人が多すぎて顔も合わせない、言葉もかけない。回覧板を回す時などに声をかける。共同で空き地に野菜など作る事も良いのでは。

個人情報保護法のためのハードルがあるが、常会には情報公開してほしい。

大家族制の良さを現代に生かす。

独居老人や核家族への地区、地域での見守り活動。

健康長寿ポイント制にしたらどうか。

健診の受診率向上をはかり、市をあげて健康日本一を目指す。

長寿健康体操がすたれている感じである

男の出不精の解消が問題。地域行事等での役割を明確に。

運動施設(市営グラウンド、体育館)の会場確保がなかなか困難である。

公民館活動の充実をはかり、各種サークルへの参加を促す。

公民館活動や地区の活動への参加をポイント制にしてはどうか。

災害時対応への心配。

生保者への成年後見支援、専門職後見人の活用拡大。

年金から引かれる介護の使い方がいまいち不明。

保健委員さんをもっと活用できないか。

空き家問題、墓じまいへの対策を。

入区への説明を十分に行い、区の役員や活動への参画意識を持ってもらう。

検討テーマ	処理担当委員会
<p align="center">魅力ある伊那市 ～ 人が集まる伊那の産業(しごと) ～</p>	<p align="center">経済建設委員会</p>
<p align="center">市民から出された意見</p>	
<p>空き家活用の推進 ①空き家片付け隊の設置を ②伊那市が空き家をリフォームし市営住宅としては</p>	
<p align="center">現状・市の対応(地域創造課・管理課)</p>	
<p>①空き家片付け隊の設置を【回答:地域創造課】 空き家の荷物の片づけは、所有者の大きな負担の一つとなっています。現状では、個人で片づけるほか、事業者やシルバー人材センターなどが請け負って行っているケースも多く見受けられます。また、個人財産であることを考えると、行政が直接荷物の片づけを行うことはそぐわないと考えます。個人、事業者、いずれの場合も、空き家バンク登録促進補助金(家財の搬出・清掃 最大15万円)の対象となることから、空き家バンクへの登録相談時や物件調査時において、適切なアドバイスや丁寧な説明を行い、補助制度を有効にご活用いただき、個人負担の軽減につなげていきたいと考えます。</p> <p>②伊那市が空き家をリフォームし市営住宅としては【回答:管理課】 市営住宅の整備計画では、全体戸数を減らしていくこととなっており、新たに市営住宅を設置することは考えていません。 空き家の有効利用では、空き家バンク制度を行っており、登録推進や補助制度などの拡充を図っていきたいと思います。 移住希望者の中には、賃貸住宅を希望する者もいることから、田舎暮らしモデル地域を対象に移住定住を目的とした賃貸住宅の検討を行っていききたい。</p>	
<p align="center">経済建設委員会での検討結果</p>	
<p>①空き家バンクへの登録数が少なく、需要に対して供給が追いついていない状況にある。空き家バンクへの登録については補助制度があるものの、「登録までに時間がかかる」、「借り手が見つからないかもしれないのにお金はかけられない」などの声も聞かれる。今後以下の点について検討されたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンク登録の周知方法及び登録までの手続き簡素化等の見直し ・地元の団体などが空き家の片付けを行った場合の補助制度の創設 ・地元が行う貸し手・借り手のマッチングに対する補助制度の創設 <p>②市では今年度「伊那市空家等対策協議会条例」を制定した。今後、空き家の有効活用を含めた空き家対策については重要課題として取り組む必要がある。</p>	

検討テーマ	処理担当委員会
<p align="center">魅力ある伊那市 ～ 人が集まる伊那の産業(しごと) ～</p>	<p align="center">経済建設委員会</p>
<p align="center">市民から出された意見</p>	
<p>農業の6次産業化・ブランド化の推進 ①内藤とうがらし、雑穀、在来種そば(入野谷そば)、川下り米、河原田米等 ②eコマース(ネット販売)へのサポートを</p>	
<p align="center">現状・市の対応(農政課)</p>	
<p>①各種農産品の取り組み 【内藤とうがらし】 新宿内藤とうがらしプロジェクトから市民有志が種を譲り受け、高遠町地区で栽培を始めた。現在、一味とうがらしの販売、長谷中学校ではとうがらしを使ったラー油の製造販売を行っているが、内藤とうがらしはH25にJA東京中央会の江戸伝統野菜の認定を受けており、今後伊那市として幅広く「内藤とうがらし」を展開していくためには、名称使用について整理が必要である。また、伊那独自のとうがらしとして「高遠てんとうまぶり」のブランド化の取り組みも行われている。 【雑穀】 南アルプスむらのレストラン「野のもの」を中心として長谷地域で雑穀が栽培・販売されており、H29から地域おこし協力隊を配置し取り組みを強化している。伊那地域アマランス研究会(伊那商工会議所が事務局)に伊那市も参加し特産品化を図っている。 【在来種そば(入野谷そば)】 H28から入野谷そば振興会が信州大学農学部からの指導を受けながら原種を増やしており、伊那市も支援している。市内そば店で名物となるよう、今後も引き続き支援していく。 【川下り米】 古くから三峰川水系の米がそのように呼ばれ、伊那市は全国でも有数の良質米の産地であり、JA上伊那を中心に生産、販売強化に取り組んできた。JA上伊那では伊那市産米を「伊那華の米」のブランドで販売している。 【その他の取り組み】 信州大学農学部と連携したヤマブドウ「信大W-3」の栽培、ヤマブドウワイン「山紫」の生産、夏秋いちご「恋姫」、ブルーベリー「蜜の粒」などの新宿老舗果物店での販売PR、みはらしファーム、南アルプスむら長谷での農産加工品、農産物の直売、「伊那華のみそ娘」などの特産品の販売促進、ブランド化を推進している。</p> <p>②eコマースへのサポート 電子商取引は、企業同士、ネットショップのような企業と一般顧客、オンラインオークションなどの顧客同士の取引があるとされているが、行政としてサポートする必要があるかどうかは、今後の情勢を見ながら検討していきたい。</p>	
<p align="center">経済建設委員会での検討結果</p>	
<p>・各種6次産業化・ブランド化が進められているが、市民への周知が不足しているように感じられる。今後は規模を拡大して産地化を図るなど、伊那市と言えば「〇〇〇」と市民誰もが答えられるような取り組みを期待したい。</p> <p>・eコマースについてはニーズに対応するため、観光協会や商工会議所等と連携し、研修会の開催などを検討されたい。</p>	

検討テーマ	処理担当委員会
<p align="center">魅力ある伊那市 ～ 人が集まる伊那の産業(しごと) ～</p>	<p align="center">経済建設委員会</p>
<p align="center">市民から出された意見</p>	
<p>観光の推進</p> <p>①オプションツアーの企画を(農業体験、バイオマス、マウンテンバイク等)</p> <p>②観光に来た大型バスが寄れる土産物屋を</p>	
<p align="center">現状・市の対応(観光課)</p>	
<p>①オプションツアーの企画を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)伊那市観光協会で、「ちょっとおでかけい～な旅」としてツアーを実施していますし、様々なモデルコースを設定してホームページで案内をしています。また、年に数回首都圏、中京圏、関西での商談会の折や旅行会社、メディア関係にも営業活動を行い、モデルコースなども案内をしています。 ・農業体験やマウンテンバイクについては、みはらしファームのメニューとして案内も行っています。 ・木質バイオマスや小水力発電の活用については、民間による「エネルギーツアー」が始まっています。 <p>②観光に来た大型バスが寄れる土産物屋を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旅行会社等からお問い合わせがあった時には、みはらしファームのとれたて市場や、道の駅「南アルプスむら長谷」、かんてんぱぱガーデンなどをご案内しております。 ・土産物屋については、民間で設置するものであると考えます。 	
<p align="center">経済建設委員会での検討結果</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・観光課、観光株式会社、観光協会の三者が情報を共有し連携がとれる仕組みづくりを検討されたい。 ・観光協会の場所と土日営業について検討されたい。 ・旅行会社との連携などにより大型バスを誘致するとともに、インバウンドの受け入れ体制の整備(語学研修等)を進められたい。 ・農家民泊に来た子どもたちや修学旅行生も買えるようなお土産が必要であり、食べ物以外のお土産について開発を進めるべき。民間企業を含め障がい者施設との連携も考えられたい。 	

検討テーマ	処理担当委員会
<p align="center">魅力ある伊那市 ～ 人が集まる伊那の産業(しごと) ～</p>	<p align="center">経済建設委員会</p>
<p align="center">市民から出された意見</p>	
<p>市内企業のイメージアップ戦略</p> <p>①市内企業を多くの人に知ってもらう必要がある</p> <p>②企業と地元住民等が交流できる機会を</p>	
<p align="center">現状・市の対応(商工振興課)</p>	
<p>①市内企業を多くの人に知ってもらう必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伊那公共職業安定所を主体に、上伊那の高校2年生が地元企業の人事担当者から仕事内容などを聞く「地元企業の高校内企業説明会」を毎年開催しています。(H29参加学生数:312名) ・伊那職業安定協会(事務局:伊那商工会議所)では、上伊那の高校3年生及び教職員が地元企業を視察するバスツアーを実施しています。(H30参加学生数:383名 教職員76名 企業数:31社) ・上伊那広域連合(上伊那地域若者人材確保連携協議会)が中心となって、上伊那の企業と協力しながら大学等に進学した学生を対象にした「企業説明会」や「就活準備合宿」、また、親と一緒に参加できる「かみいなシゴトフェス」などの開催による地元企業を知る機会づくりに取り組んでいます。 ・上伊那産業振興会と連携し、上伊那の製造業を紹介する「上伊那産業地域 企業得意技シート」を上伊那の各高校に配布しています。 <p>②企業と地元住民等が交流できる機会を</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長野県南信工科短期大学校と連携し、地元企業と住民等が交流できる場として、「人材ふれあいフェア」を開催しています。 ・市内企業の中には、自社で開催する「納涼祭」などに地元住民を招待するなど、地域に根差した取り組みを行っている企業があります。 ・企業を知ることは自分の住むまちに対して興味を持つことにもつながることから、伊那市内の全中学2年生を対象にした「伊那市キャリアフェス」を開催することにより、企業が積極的に地域の活動に参加できるような取組みを推進しています。 	
<p align="center">経済建設委員会での検討結果</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育、キャリアフェスなど大変すばらしい取り組みであるが、多くの市民にとっては聞きなれない言葉である。取り組みの状況や概要について更なる周知に努められたい。子どもころから企業に接することは市内企業を知る良い機会であり、イメージアップにもつながる。 ・就職する高校生や大学生の親に向けては、「かみいなシゴトフェス」の開催などにより地元企業のPRを行っているが、更なる情報発信について検討されたい。 ・企業説明会に参加した学生の就職実績等を把握し、今後のニーズ等に活かされたい。 	

経済建設分科会で出されたその他の意見

《 移住・定住 》

- ・未満児保育に対する充実が必要。(年度途中での入園希望などへの対応等)
- ・入区費が高い。
- ・移住者が地域に溶け込めるような対策を。
- ・地域をよく知り、守ってきた人が減ってきている。
- ・子どもに対して地元に戻って来いと言えない現状もある。
- ・伊那から出ていかない施策も必要。
- ・自然の美しさ、住み良さ、人の良さを生かす。
- ・自然の中で遊ぶことのできる伊那の子どもは都会の子どもよりも明るい。
- ・車は必要であるが通勤等は楽である。
- ・普段空き家ではあるが、お盆やお正月に帰省するために利用される人が多い。(空き家バンクへの登録が進まない)
- ・土蔵の有効活用を。

《 農業・林業 》

- ・食べ物が美味しく米の味が違う。海のもの以外は何でもある。
- ・農業だけでは生活できないため兼業をしている。
- ・耕作放棄地が増えて、畑が山のようになっている。
- ・季節労働者の確保を考える。
- ・農産物の特産品化を。
- ・かつてのように林業で食べていくことはできない。

《 道路関係 》

- ・国道361号の安全対策を。
- ・国道152号の整備を早急に。
- ・交通弱者に対する対策を。
- ・交通量が多い場所など危険カ所については改良を。
- ・道路網整備が遅れている。
- ・地域によっては交通の便は良い。

経済建設分科会で出されたその他の意見

《 観光 》

- ・ 高遠城址公園、ポレポレの丘、しんわの丘ローズガーデンをまとめた観光施策を。
- ・ ポレポレの丘はあまり知られていない。
- ・ 高遠町の魅力発信を。(歴史、祭り、散策、石工など)
- ・ 美和湖の紅葉を生かすべき。
- ・ みはらしファームを含めた羽広地区は自転車ツーリングに適している。
- ・ グリーンファームやかんてんパパガーデンは遠方から多くの人を訪れている。他の場所への誘導策を。
- ・ 高烏山に見晴らし台の設置を。
- ・ 伊那市の景観を生かした観光を。伊那スキーリゾートからの眺めは最高。
- ・ オプショナルツアーの企画を。
- ・ バイオマスエネルギーを生かした観光施策を。
- ・ 国道153号沿いに道の駅の設置を。(工場や公園などの併設も含めて)
- ・ ホテル建設が必要。
- ・ インバウンドに備えて宿泊施設で英語対応を。
- ・ 女性目線で宿泊したくなるような施設を。
- ・ 高山市との連携を。

《 企業関係、その他 》

- ・ 大企業が少ない。
- ・ 地理的には東京と名古屋の間であり良い。
- ・ 多様な産業の誘致を。(再生紙工場、電池工場、バッテリー関係など)
- ・ 製造業が多いため、製造業に元気がないと他の産業にも影響が出る。
- ・ 給与、時間給が安い。
- ・ 人材育成が必要。
- ・ 伊那市は災害が少ないことがアピールポイント。
- ・ 大学の誘致を。
- ・ やりたい仕事を一緒に考えてくれる場所が欲しい。
- ・ 家の近くで働けることは魅力。長時間満員電車に乗る必要もない。
- ・ 未婚の人が増えている。
- ・ 若い人に多いが、最近はふわっとした仕事が増えている。(自分で自分の仕事を作る)

5 市民と議会との意見交換会 参加者アンケート結果

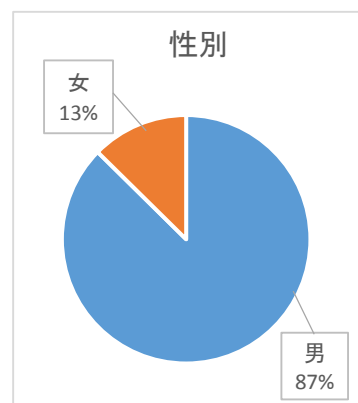
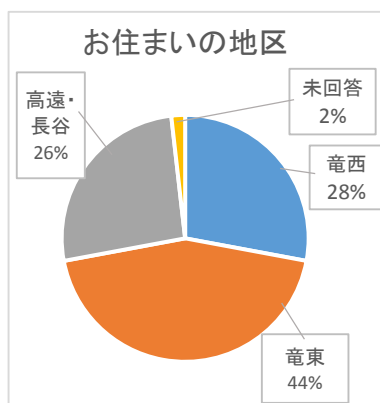
お住まいの地区は、どちらですか。

回答者数 111人

竜西	山寺	荒井	平沢	西町	西箕輪	西春近	
31	1	6	1	2	5	16	
竜東	中央	日影	境	野底	狐島	上牧	上の原
	3	3	4	2	1	4	2
49	前原	美原	美篤	福島	手良	東春近	富県
	1	1	9	2	5	7	5
高遠・長谷	高遠	長谷					
29	18	11					
未回答							
2							
全体							
111							

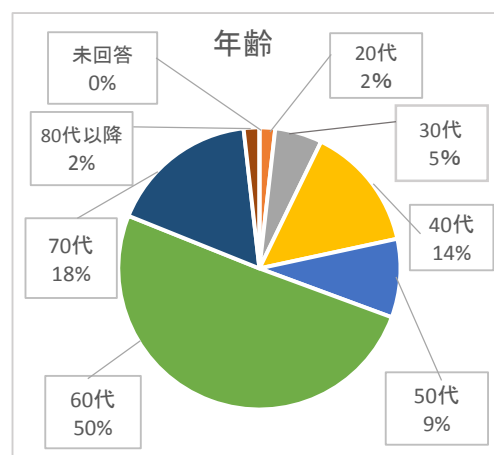
性別

	人数	割合
男	97	87%
女	14	13%



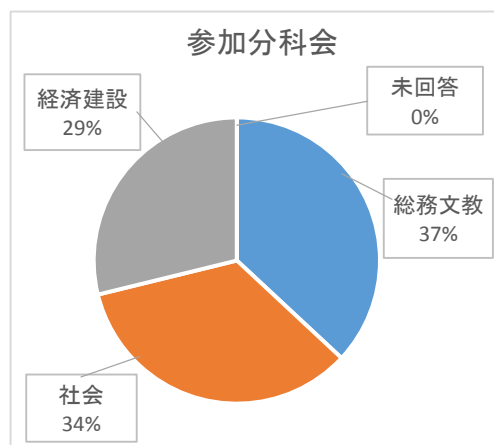
年齢

	人数	割合
10代	0	0%
20代	2	2%
30代	6	5%
40代	16	14%
50代	10	9%
60代	56	50%
70代	19	18%
80代以降	2	2%
未回答	0	0%



参加分科会

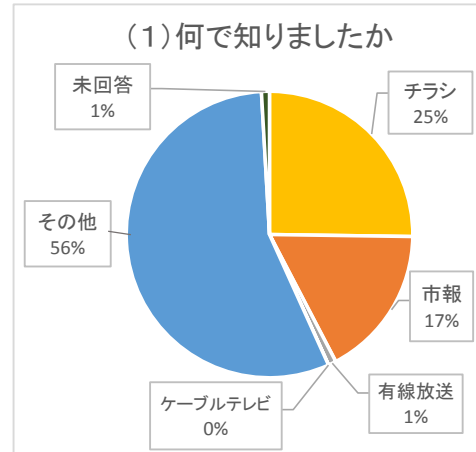
	人数	割合
総務文教	41	37%
社会	38	34%
経済建設	32	29%
未回答	0	0%



1 市民と議会との意見交換会について

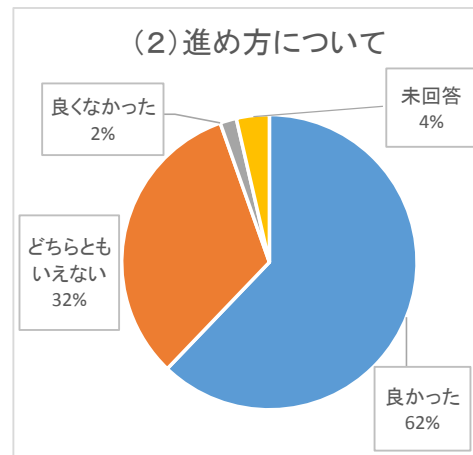
(1)この意見交換会を何で知りましたか

	人数	割合
チラシ	28	25%
市報	19	17%
有線放送	1	1%
ケーブルテレビ	0	0%
その他	62	56%
未回答	1	1%

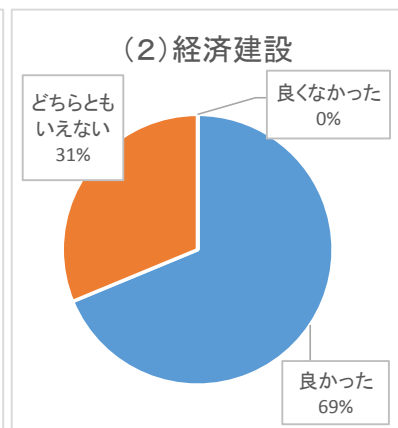
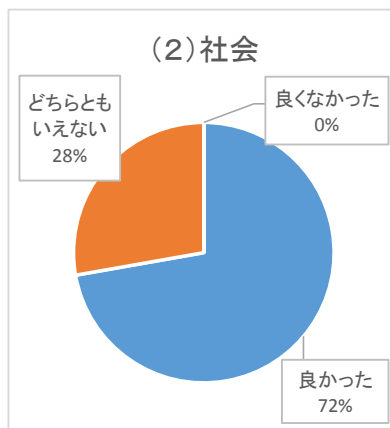
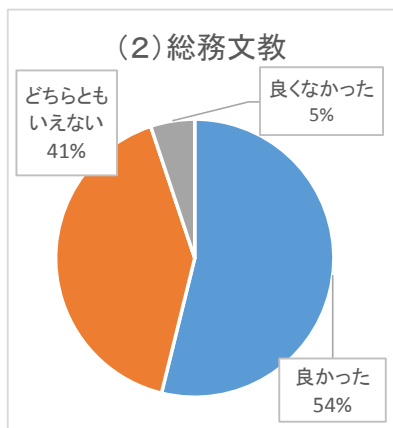


(2)意見交換会の進め方について

	人数	割合
良かった	69	62%
どちらともいえない	36	32%
良くなかった	2	2%
未回答	4	4%

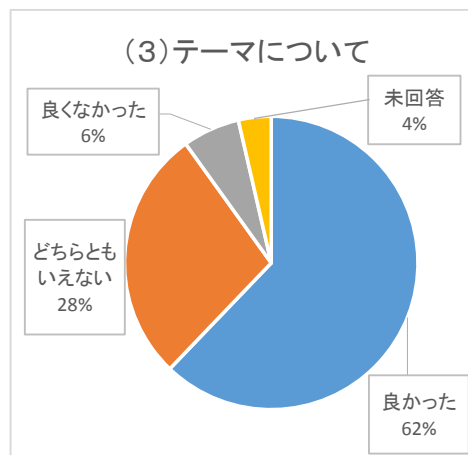


<分科会別>

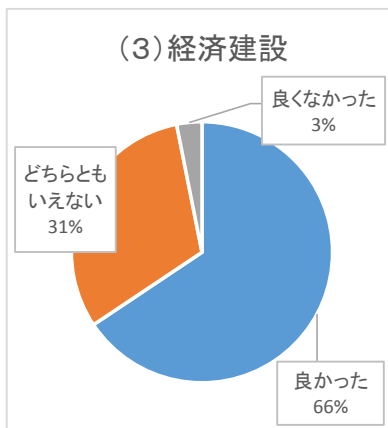
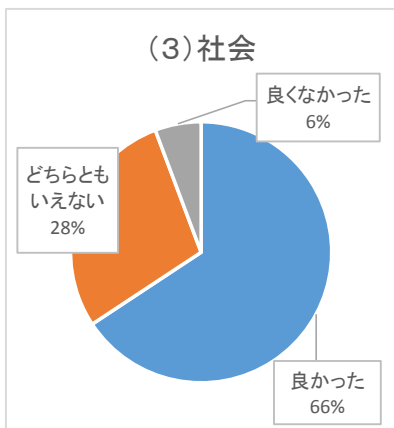
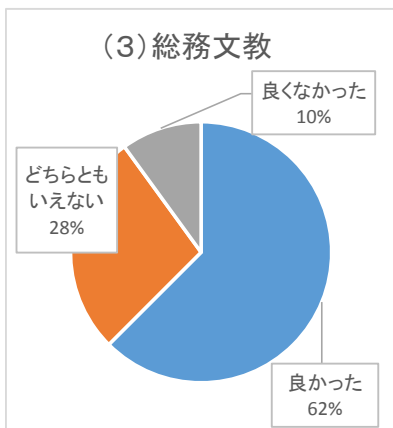


(3)意見交換会の各分科会のテーマについて

	人数	割合
良かった	69	62%
どちらともいえない	31	28%
良くなかった	7	6%
未回答	4	4%

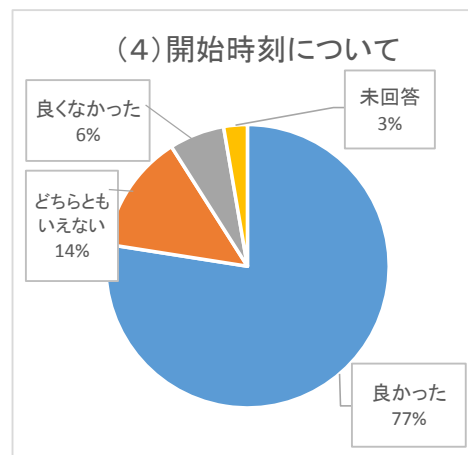


<分科会別>

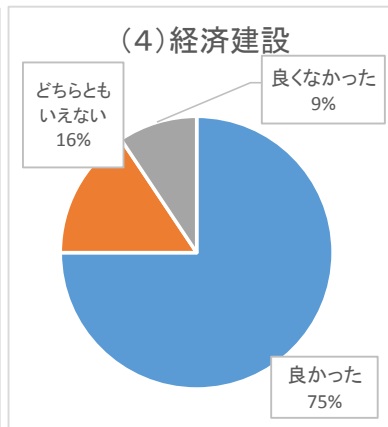
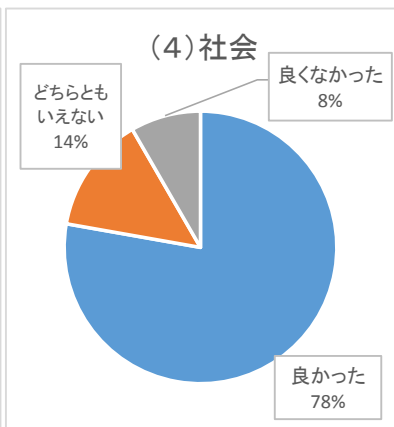
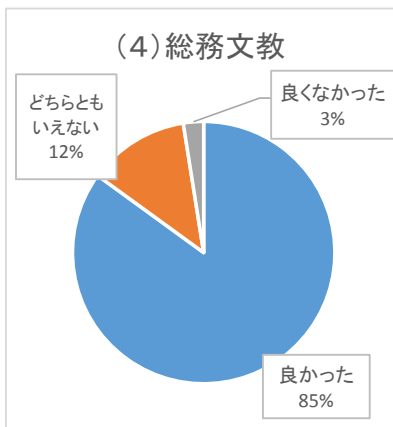


(4)意見交換会の開始時刻について

	人数	割合
良かった	86	77%
どちらともいえない	15	14%
良くなかった	7	6%
未回答	3	3%

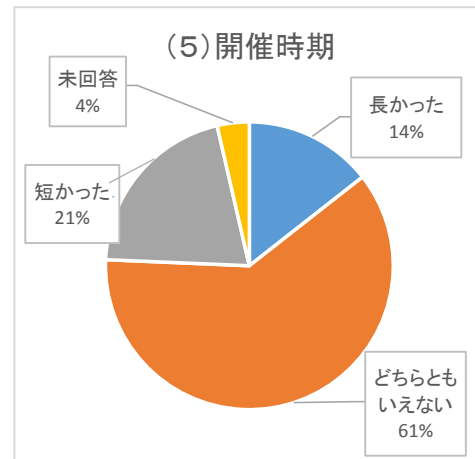


<分科会別>

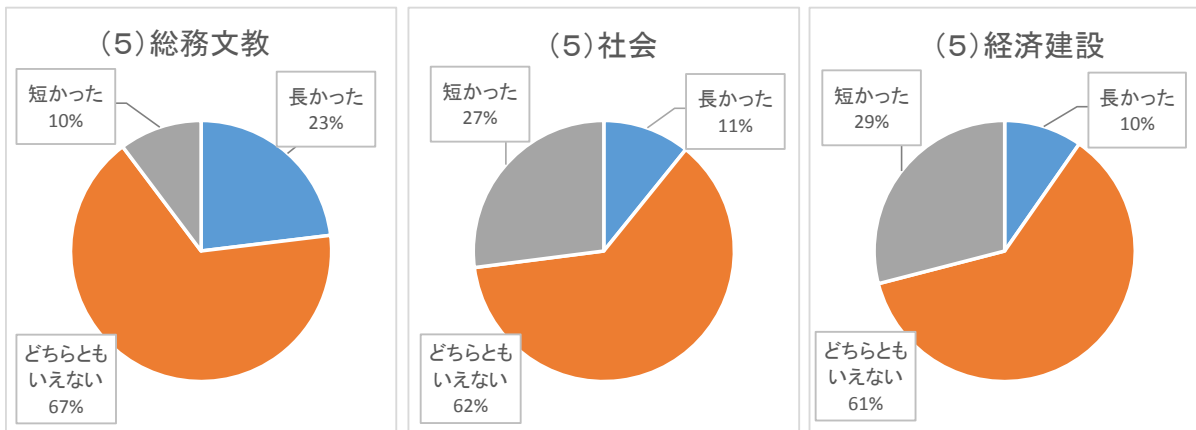


(5) 意見交換会の話し合いの時間について

	人数	割合
長かった	16	14%
どちらともいえない	68	61%
短かった	23	21%
未回答	4	4%

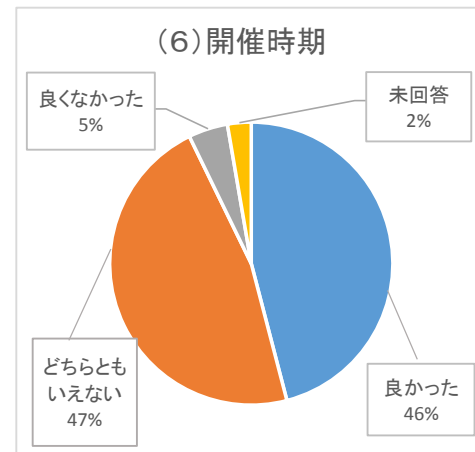


<分科会別>

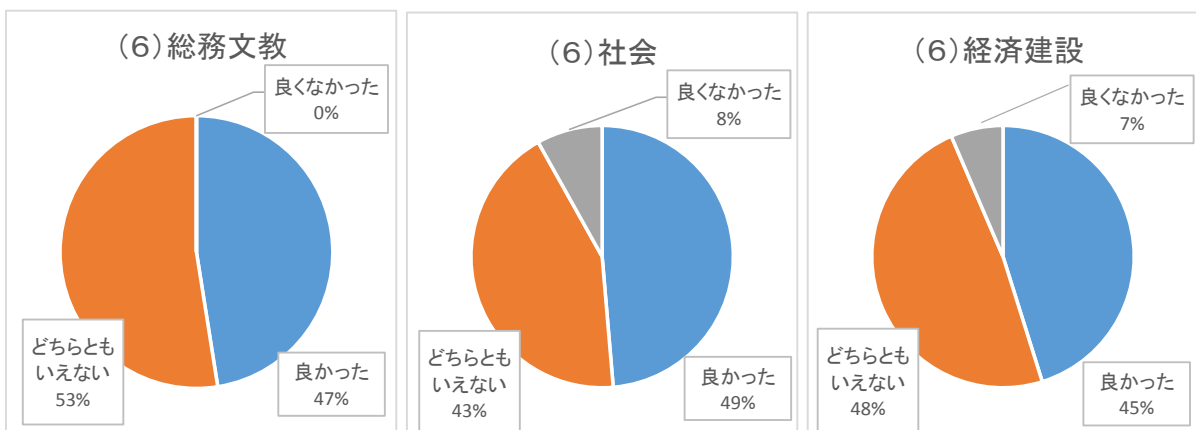


(6) 意見交換会の開催時期について

	人数	割合
良かった	51	46%
どちらともいえない	52	47%
良くなかった	5	5%
未回答	3	2%

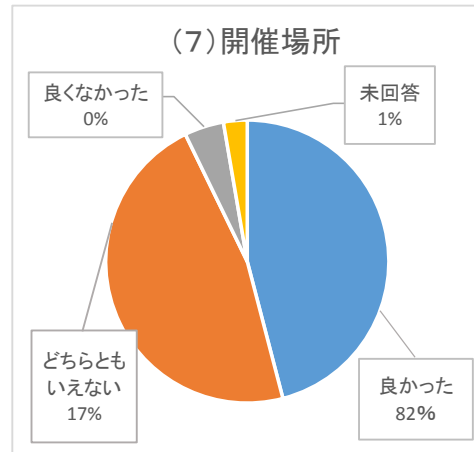


<分科会別>

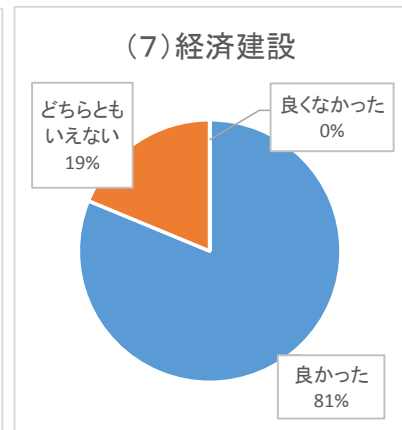
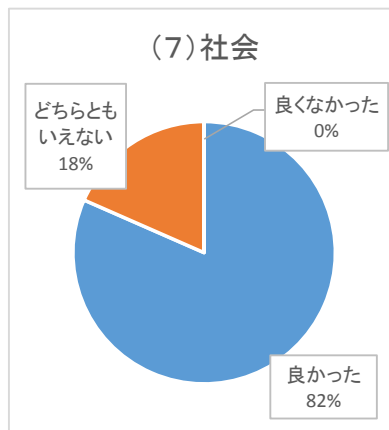
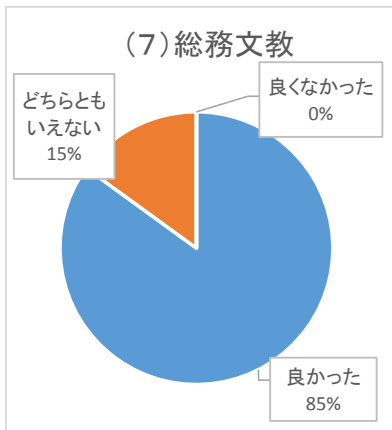


(7)意見交換会の開催場所について

	人数	割合
良かった	91	82%
どちらともいえない	19	17%
良くなかった	0	0%
未回答	1	1%

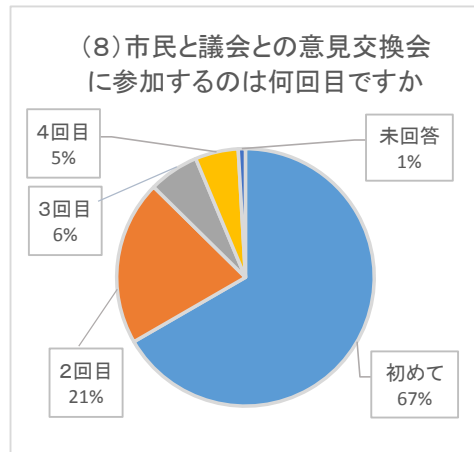


<分科会別>



(8)市民と議会との意見交換会に参加するのは今回で何回目ですか。

初めて	74	67%
2回目	23	21%
3回目	7	6%
4回目	6	5%
未回答	1	1%



【 ご意見等 】

- ・この懇談会に向けて、議会としても討論してから、もう少し論点を深めてから望んでほしかった。昨年以上に散漫な集会だった
- ・市は無駄遣いが多い
- ・伊那市は素晴らしいところ。そのことを確認・認識する努力をお願いします
- ・三地区全体での発表会があってもよかろう
- ・初めて参加したが、みなさんの色々な声が聴けて良かった
- ・参加者が地区役員が多い 若者の参加が少ないのは残念
- ・各区や公民館、保育園、小中学校へ出向いての意見交換会もあって良いと思う
- ・隣組加入、区費納入についてPRしてほしい
- ・参加者は区長が多い。一般市民がもっと参加するにはどうしたら良いか検討してもらいたい
- ・野底第二常会及び第一常会7組のエリアが水洗未整備。整備実行願う
- ・テーマと関係の無い話はやめてもらいたかった
- ・しきりが事務局職員でなく議員さん自らだったのが新鮮だった
- ・二瓶議員のFBで知った。もっと多くの参加を促すよう広報してほしい
- ・様々な課題があって当たり前。その課題が人と人をつなぎ危機感と希望を共有し合う体力のある地域が育っていくと思う
- ・色々な活動をしている人たち・団体にもっとお金を出してほしい。市でやれないことを待ってられずに活動しているのだから
- ・高校生の児童手当、福祉医療費について考えていただきたい
- ・全体会の中で、全議員の自己紹介があってもよいのでは。名前と顔が一致しない
- ・国道361号の在り方をもっとPRしてほしい
- ・国保税と市県民税を払うことが難しく、税務課との話し合いの上で分割で支払うことになったが、きちんと説明して一生懸命払っているのに延滞金がかかるのは納得できない
- ・色々な立場のお仕事の方々とお話できて良い機会だった 勉強になった
- ・里山の整備、森林伐採をし、一目で遠くまで見える里山づくりをしたら良いと思う
- ・分科会で面白い意見が聴けて良かった 自分の考えが狭いと気づいた
- ・議長のあいさつはよかった
- ・民間の力を活かすべく、市はインフラ整備を考えてほしい
- ・図書館といなっせ学習室でパソコンを使えないのが不便 中川村や駒ヶ根は使用可能時間を区切ってでもいいので利用できるようにしていただきたい
- ・意見吸い上げは難しいが、方法を考えて吸い上げてください

- ・もっと伊那市を活性化してほしい
- ・無投票は非常に残念 次は無投票にならないようにしてほしい
- ・地区に入区したがらない家があるがどうしたら良いか。抜ける家もある
- ・意見交換会を年一回でなくもったきめ細かに取り組んではどうか
なんでも言っていり会もあってもいいのでは?
意見交換会に参加して、他地区の人と話し合いができるのはとてもいいことだと思う
- ・魅力ある大学や企業の誘致を

「魅力ある議会づくり」について

【 無投票になってしまった要因についてどのようにお考えですか？ 】

- ・意見の違いがあまりなく、投票するまでもないと立候補者が競争を避けたのではないか
- ・具体的な争点が見えない
- ・議会に関心が無い
- ・市議のなり手不足
- ・人口が減ってきて伊那市に元気がなくなっているから
- ・人口が少なく、立候補する人がいないから
- ・無投票でもいい 市民本位の考えの人が議員になるなら
- ・定数は2名ほど減らしてもいいと思う
- ・地区で選考する時点で、誰でも同じ という考えがある
- ・無投票が悪いとは思わない 議員の方々の志が大事
- ・議員の期待が減っているから
- ・地区選出が多いのでは？ 全地域でのトライがあっても良いのでは？
- ・議員という役職に魅力がない
- ・非常に残念 次は無投票にならないようにしてほしい
- ・地域から推される人がいなかった。そもそも「誰がなっても同じ」と地域の方々が関心がないからか？
- ・市長の思うままかと思う
- ・退任する議員が後継者の育成をしないから
- ・議員の仕事の不理解
- ・市長や国、県に対してイエスマンの議員が多く、議会の存在価値が感じられないから
- ・議員がサラリーマン化している
- ・人のために働く気持ちのある人がいない 育っていないから
- ・定数が少なくなり、大きい組織とかいくつもの地区の推薦が得られないためだと思う
- ・各地区の代表としてのみ立候補している印象がある
- ・議員という役職に魅力がない
- ・報酬が安い 報酬で生活できる金額が必要である
- ・地区から複数人立候補して選挙で共倒れは最悪なので、地区としては複数の立候補を目指せない雰囲気があった
- ・是非市議会議員になりたいという人は少なくなっているのかもしれない
- ・現役世代にとっては、自分の仕事を制限してまで立候補するのは難しそう
- ・市政への興味が薄くなっているため

- ・ 市政への関心が薄れてきている
- ・ 報酬のわりに業務が多く、地元には文句を言われ、大変だから市議会議員のなり手がいないのでは。　せめて県議くらいいただければ
- ・ そもそも議員数が適当か検討の必要あり（減らして報酬アップを）
- ・ 伊那市を良くしたいという志が大きい人がいないから
- ・ 魅力ある議会、魅力ある市だと思えないから人材が育っていないのでは
- ・ 市民の市政に対する意識の低さにつきる　他人事ととらえている
- ・ 議員年金等検討すべき
- ・ 政治に無関心の者が多くなってきているから
- ・ 議員定数が多い　減らして報酬アップを
- ・ 市議のなり手不足
- ・ 定数減　報酬アップを
- ・ 市議会が身の回りに近くないから　一般の人とのかかわりがいいからか
- ・ 報酬が若い世代にとっては低い　かと言って高齢者には市議の仕事が困難なことが多いから
- ・ 党内・派閥内で調整が入ったような噂がある
- ・ 伊那市に魅力が無いからか？
- ・ 市議会の果たす役割に期待していない(関心がない)市民が多いから
- ・ 立候補しようとしたときに、どれだけ自分と一緒に市政を変えたり作ろうとしてくれる市民がいてくれるか確信が持てないから立候補しないのではないか
- ・ 議会が生き生きしていないから
- ・ 市民が無関心、無責任
- ・ 普段から市議会を身近に感じられる制度や仕組みが必要
- ・ 会社員が議員になれるよう、議会を夜間にできるよう制度改革が必要
- ・ 選挙となると年配の者は大変積極的。若者は対照的。若い人にも興味をもてる議会に。
- ・ 議会に興味を持てないから
- ・ 議員になることに遠慮があるのでは？
- ・ これが現実
- ・ 議員の視点からの市政の問題点や課題について、市民に伝わっていないから興味ももてないのでは
- ・ 社会の退職年齢が高くなり、議員になることが難しくなっている
- ・ 無投票だったことにこだわらなくてよい

【 議会や議員にどのようなことを期待しますか? 】

- ・ 市民と直接話し合う機会の積み重ねをしてほしい
- ・ 政策提言できる議員を望む
- ・ 民主的で公正な運営でありつづけてほしい
- ・ 市民の代表としての働き
- ・ 長中期的に市政の戦略が組み立てられているか、それを実行する戦術は適切か、確実にチェックしてほしい
- ・ 市の行政に対する批判的なものに期待する
- ・ 爆弾発言的なものも期待する
- ・ 市民との意見交換の場を増やすなど住民の声を聴く場を多くしてほしい
- ・ 立候補時の初心を忘れないでほしい
- ・ しっかり勉強してほしい
- ・ 活躍している姿をみせてほしい 成果を出してほしい
- ・ チャレンジを恐れずにしてほしい 失敗も反省すれば次につながるのだから。
- ・ 議員数減 議員報酬増
- ・ 地域の意見を少しでも多く吸い上げてほしい
- ・ この意見交換をした後、出た意見を議会や検討会にちゃんと使用して行ってほしい
- ・ 大きな意見も大事だが、小さな意見も聞いてほしい
- ・ 様々な声に耳を傾けてほしい
- ・ 議員間の多様な意見を戦わせてほしい
- ・ 新しい住民の中には従来の価値とは趣の異なる感覚の持ち主もいる。全ての考えが同一になるわけではないので、違いを恐れず色々な考えを掘り起こしてください
- ・ 伊那市だけでなく上伊那全体で企業開拓や観光開拓を進めてほしい
- ・ 伊那市の将来のために英知を絞って活動してほしい
- ・ ビジョンと課題をしっかりと示して活動してほしい
- ・ もっと市民と直接話をする機会を持つ方が良い
- ・ 議場へ足を向かせるように
- ・ 地域の要望事項を一つでも多く取り上げてほしい
- ・ 表現の自由から出る知恵を活かし、開かれた議会を望む
- ・ 地元の問題だけでなく全地域的な行動
- ・ 伊那市という行政を範囲でなく広域的な見地で考えてほしい
- ・ 魅力のある伊那市になるようしてほしい
- ・ 一般質問は質問をやりっぱなしで、その時の市当局の答弁で終わっていて問題解決になっていない

- ・市民に影響力のある人材に議員になってほしい。いくら公に尽くされていても知られていないのはもったいない
- ・どこに予算を振るか、どこに力を入れるか、中途半端にしないでほしい
- ・伊那市は高校生までの子育てにあまりいい環境ではない。そう思わない伊那市にしてほしい
- ・もっと地域に入って市民の意見・声をたくさん聴き、住みよい伊那市を作してほしい
- ・子どもたちの声を聴く場、高齢者の声を聴く場など多様な意見交換会を設けてほしい
- ・生涯学習基本構想を議員に読んでほしい
- ・この意見交換会の場で得られる市民の声を吸い上げ、考え、関係者等と協議を重ねることが大切
- ・地元から議員が出て活気づくこと
- ・国政や県政にもつながる様な案件は、住民意識に沿った活動をしてほしい
- ・現実的にはやはり地域の便宜を図った活動をしていただきたいが、理想的には伊那市全体の発展・福祉向上の実現に向けて努力してほしい
- ・市長の提案に対して対策を出して議論できるようにしてほしい
- ・今回のテーマに対して市議会が行っていることと行う予定があることを事前に説明してほしい
- ・議員の自分の地区を超えて遠くまで苦情や要望を聞いて歩く努力がほしい
- ・議会の開会を夜間にしたり、土日にすることも考えるべきではないか
- ・意に介さない意見でも一旦は受け止め、反論を理由をつけて行うように願う
- ・情報発信を積極的に
- ・市民の意見を市政に反映してほしい
- ・少人数でよいので、回数と開催場所を増やして市民との意見交換会をしてほしい
- ・積極的な地域活動
- ・本日の意見を活かしてほしい
- ・行政監督だけでなく、議会としての施策をどんどん積極的に出してほしい
- ・市長、副市長、管理職に議会を通じて市民の現状をつなげていただきたい
- ・議員に若い人が出るように、長くても三期で次の世代に譲っていただきたい
- ・伊那市が変わっていくように一緒になってやっていただきたい
- ・会派による運営を考え直した方がよいのでは
- ・もう少し活発に活動してほしい
- ・市民のために頑張してほしい
- ・地域の声を吸い上げる機会を増やし、小さい要望が届くようにしてほしいし、その返答も聞きたい
- ・議員個人や会派のマニフェストを年度初めに文書で市民に示し、年度末にはその結果と総括を示すべき。市民との意思疎通を。

- ・市報での一般質問の記事は断片的でよくわからない。議員個人の意見や考えをもっと市民に知らせる方法を考えてほしい
- ・議案・法案をどんどん処理して
- ・行政のチェック機能の立場で行政を見てほしい
- ・数年先を見据えた行政チェックを
- ・意見交換会を続けてほしい　もっと細かい単位で意見交換会ができるといい
- ・報酬額に見合った仕事をしているのか全くわからない
- ・地域から様々な意見が出て、それを一つ一つ聴くのは大変だと思うが、一個でも解決、良い方向に行くように頑張してほしい
- ・議会も議員ももっと地域に入り込んで実情を把握してほしい
- ・市政について、直接顔を見ながら報告を受けられる機会を多く作ってほしい
- ・若い人たちが政治を身近に感じられる働きかけをしてほしい
- ・地元の意見を大切にしてほしい
- ・意見交換会のテーマを、確実に実現できそうなテーマにしてほしい
- ・通学路の問題を早く解決してほしい
- ・市民の生活への視線を常に持ち、日常的に市民の声を聴いてほしい
- ・市民の暮らしや市政の課題が国政や県政とどのように関わっていて、なぜ市民の困難や期待が生じているのかをしっかりと考えてほしい
- ・イエスマンばかりの議員では価値がない
- ・若い世代の定住や街中の活性化に尽力してほしい
- ・時代の流れを読み、先進的なことを取り入れつつも、地域力を活かした取り組みを重ねてほしい
- ・地域の声聴く機会・地域へ声を伝える機会　その場が大切

6 各会場の様子



受付 (いなっせ)



総務文教分科会 (やますそ)



社会分科会 (伊那公民館)



経済建設分科会 (防災コミュニティセンター)



ワークショップで参加者の皆様から
たくさん声を聞くことができました。



伊那市議会ホームページでも公開しています。

[http://www.inacity.jp/shigikai/
ikenkoukankaihoka/index.html](http://www.inacity.jp/shigikai/ikenkoukankaihoka/index.html)



編 集 : 伊那市議会 議会運営委員会・正副委員長会

編 集 長 :	議会運営委員会	委員長	宮島	良夫
副編集長 :		副委員長	白鳥	敏明
編集委員 :	総務文教委員会	委員長	唐澤	稔
		副委員長	野口	輝雄
	社会委員会	委員長	前田	久子
		副委員長	二瓶	裕史
	経済建設委員会	委員長	唐澤	千明
		副委員長	柳川	広美

この報告書は1冊あたり 473円(税込)かかっています。
ただし、編集時の職員の人件費は含まれていません。